

月刊 JMITU 社会力



9月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2017年発行

No.393

2017年 秋闘・年末一時金要求提出

夏季一時金よりアップを!

9月20日、私たちJMIT
Uセガグループ分会は、秋闘・
年末一時金要求を、SHD、S
IC、SLSの3社に提出しま
した。要求項目22項目は以下
の通りです。

・高年齢者再雇用における有期契
約社員の給与を、定年時の月
額基準内賃金の100%で
算定し支給すること。

・新人事制度を廃止し、導入前
の賃金体系に戻すこと。

・リロポイントを減額した時点
に遡及し、元に戻すこと。

・エリア社員の身分制度を廃止
し、正社員にすること。ただ
し退職金はエリア社員であ
った勤続期間を加算するこ
と。

・「育児休業及び育児短時間

勤務」「介護休業及び介護短
時間勤務」を取得した場合は、

立・実行、その他、重要な経
営施策の変更については、労
組合と事前に協議し、同意を
得たうえで実行すること。

・一日実働七時間、週五日制、
三十五時間労働とすること。

・退職金を勤続一年につき基準
内賃金の二ヶ月分とすること。

・社会保険料の負担割合を労使
三対七にすること。

・組合事務所を貸与すること。

・業務外傷病有給休暇を、一般
従業員にも現行一〇日から
最高六〇日(休日除く)を与
えること。診断書代の実費を
会社負担とすること。

・業種の進出、新業種の進出・
業種転換、資本の移動、企業
間提携、廃業、企業倒産にか
かわる私的・法的手続きの申

・アルバイト、パートタイマー
に退職金制度を設けること。

・組合活動時間一ヶ月二十時間
を有給で与えること。

・勤続三ヶ月以上の、本人の結
婚祝い金を現行五万円から
一〇万円に引き上げること。

・忌引休暇を、喪主七日、正父
母・配偶者・子供の場合七日、
祖父母・兄弟・姉妹・配偶者
の父母の場合五日、伯(叔)
父・伯(叔)母・配偶者の兄
弟の場合二日にすること。

・アルバイト、パートタイマー、
派遣・請負社員を本人の希望
があれば正社員にすること。

・本人が結婚するときの結婚
休暇は、連続二週間(休日
含む)とし、子供が結婚する
ときは三日(休日含まず)
とすること。

- ・家族手当を妻三万円、子二万円とすること。

- ・借り上げ社宅への入居期限を、現行3年から5年にするこ
と。

- ・弁当代補助を一カ月一万円支給すること。

- ・2017年年末一時金として、基準内賃金プラス家族手当の四カ月分を支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、年末一時金を支給すること。

- SHD・SIC独自の要求
- ・裁量労働手当(22時間分)を基準内賃金に入れること。

- ・有給を時間で取得できるようにすること。

SLS独自の要求

- ・佐倉南総及び矢口事業所にシャワー室を設けること。

- ・セレクト休暇にて半休を使用できるようにすること。

年末一時金は夏季

一時金よりアップを！

今回の春闘会社回答では、「今期は業績が良く回復したと判断し、係数を2.25に戻したのではなく、今まで1.75に0.5のせるという考えだ。」と回答していました。年末一時金は夏以上に係数を上げてよい年を迎えさせてほしいものです。

新人事制度の廃止を！

下期に入り、面倒な上期の目標達成度と新たな下期の目標

設定の最中だと思われます。

半期ごとで目標設定を行い、その目標の達成度によって評価が変わると言われているが、

実態は事前に人事で決められた各評価の分布比率に従って、従業員に割り振られているだけなので、目標を達成したとしても、他の部員との相対評価で順位を決められ、この比率に合うように調整がされている。

昇格の基準もあいまい、この制度に理解納得をしている社員はいるのでしょうか？

裁量労働手当を基準内に！

また、フレックス制度導入により、裁量労働手当が廃止されましたが、一部では制度導入前と同等の仕事をしているのに、賃金が下がるという可能性があります。裁量労働手当を基準内賃金に盛り込むべきです。

育児介護休業 短時間勤務

60歳以降の継続雇用

労働者の賃金改善を！

育児や介護休業・短時間勤務を取得する事により、減給や査定の対象にするのは問題です。何の為の制度なのか考えて欲しいものです。

高齢者再雇用における有期契約社員の給与を、60%に下げられても以前は報酬比例部分の支給があり何とかなりましたが、今は報酬比例部分の支給が伸びていません。少なくとも報酬比例部分が支給されるまでは100%支給するべきです。これでは働いているのに生活もままなりません。

2017年秋闘・年末一時金についての会社回答は、10月4日(水)です。

ショートショート

終活

仙洞田一彦

ついこの間テレビで身辺整理の話をしてきた。終活と言っていた。最近なんにでも「活」をつける。しゅうかつでも終

りの方ではなく、就く方の就活もある。婚活。眠活。寝活。やせ活。デブ活。おしゃ活。

聞きなれているのは生活。死活は、死ぬこと生きること、死ぬ活動ではない。死活問題に直面といえば、大変切羽詰まった状態にあること。

「終活」とはテレビを見てみると、生きているうちに「後始末」することのようだ。老夫婦が、見た感じわたしより若く見える夫婦だが、家にあるものを遺品整理屋に渡して

いた。アウト・ドア・ライフが趣味だとかで、野外用のバーベキューセット、キャンプ用品などを処分していた。まだ生きているから遺品はおかしいが、品物を渡している相手は遺品整理屋と言っていたような気がする。

暮れに団地に住む方が亡くなった。警察官が来ていたというから、死因不明の孤独死なのか。年齢を聞いてみたら、わたしより若い。がっしりした体格だったが、数年前から急に痩せて、足を引きずるようになっていた。

「痛むんですか」と、声を掛けたら、「ええ」という返事があった。別れたのか、別居していたのか、そのあたりの事情は知

らないが、奥さんが来て片付けをしていた。わたしは団地の役員だったから香典の手配などをしたが、香典を渡すきつかけを逃してしまいそうになるくらい、あわただしく片づけをして、部屋を空にしまった。

バイク運搬専用のトラックが来てバイクを持って行った。バイクが好きな人らしく、その片付けが終わったら、三台か四台分の駐車スペースが空いていた。

毎朝どこへ行くのか知らないが、その人は、一番小さいバイクの、しかも古いやつで、ものすごい音を立てて出掛けに行った。家の中においてもバリバリと何か壊れるようなバイクの音が聞こえた。「ああ、お出かけた」

と、わたしは思ったものだ。後から思えば、歩くのも大変だったので、どこに行くにも乗って出かけたのかも知れない。自転車に乗っている姿も見かけた覚えがない。

聞かれなくなった朝のバイクの音。空っぽのバイク置場を見ると、いなくなったと感じる。生前、その片付けをやるのを終活というのか。

わたしの終活対象で、特に問題になるのは本や資料だ。アウト・ドア・ライフの夫婦のように、生きているうちに処分できたら、さぞさつぱりするだろうなと思う。本や資料がなくなれば、悟りを開いた人間のように暮らすことができるかもしれない。今一九九八年と一九九九年の頃の話の小説にしている。

その頃というのは忙しくて、ビラでも、レシートでも、源泉徴収票も、健康診断の結果も、帰宅したら、そのまま積んで置いていった。それがつい三年前まで、そのままだった。紙を積んだものだから外側はほこりをかぶっているが、中は汚れていない。そういった山は、それが最後だった。

他の年代のものは整理したというか、必要だと思われたもの以外は捨てた。九八年、九年のものを大分片付けたというか捨てた後、その頃のことを小説にしてみようと思っただのだ。すると片付けの手が止まってしまった。捨てられなくなってしまう。

その前の時代のものも捨てなければ良かった、と後悔した。でも、もう駄目だ。要す

るに書いている限り捨てられないのだ。本もそうだ。月刊誌も大分捨てたが、小説を書き始めると、後悔の念が起きて、捨てるのを中止する。

ついこの間、大宅壮一文庫を取材したテレビ番組を見た。ここには国立図書館よりも週刊誌がそろっているほどだとか言っていた。紹介されるまでもなく、その時発行された本というのは貴重だ。後からその時代を研究した本は本で、別の貴重さがあるが、時代の雰囲気よみがえらせるのは当時の週刊誌、月刊誌だ。無論日々発行される新聞もそうだが。

ネットでもかなり調べられる時代にはなった。しかし、現物にはかなわない。ネットも、間違ったものをそのまま

コピー・アンド・ペーストしてあるものが結構ある。原典に当たるのが大事。

ビラもそうだ。この日に発行されたビラにはこう書いてあると教えられても、実際の現物を手に取ると、それ以上の情報が入ってくる。その番組でも言っていた。週刊誌の見出しや記事の大小、写真の大小などが分かる、と。大小で、その時、その編集者が、どの事件を重要視していたかが分かる。

ノートや手帳で手書きのもの情報をもっと微妙なところまで伝えてくれる。そうしたら「当時」のものを繰り返し読むと、当時が思い出されるし、当時見えていなかったものも見えてくる。

アウト・ドア・ライフの人

も、道具を見るとその時代の、ある時、ある場所の雰囲気よみがえるに違いない。それを捨てるということは、記憶も捨ててしまうようなものかも知れない。

本の末尾には引用文献、参考文献の一覧まであるから、本も捨てられない。要するにそんなことを考えているから捨てられないのだ。

しかし、子供たちに本を捨てさせるのは気の毒だから、生きているうちに片付けておいてやろう——なんていうけなげな思いが去来する。

その殊勝な心掛けの裏で、「二百円均一古本セール」なんていう文字が目に入ると、欲しい本が必ず見つかるような気がして来て、落ち着かなくなる。

4こ未漫画

川崎よしき

